

30. 進士流と本願寺（第3報）

光華女子短大家政 小寺 鈴

○藤井美紗子

1. 室町時代に形造られた「庖丁の家」の一流派、進士流は従来あまり明白でなかったが、東本願寺で発見された「進士流膳部方相伝物一類」によって進士流が明らかになった。よってここに紹介する。

2. 「真如上人様御本卦御祝儀之節調進之画図一卷」をもとにして「スライド」を以て紹介する。

3. 新出資料「進士流膳部方相伝物一類」（東本願寺所蔵）の内の「進士流膳部方饗御膳相伝之由来並弟子次第第一巻」については日本家政学会関西支部第15回例会で紹介し、進士流が正親町天皇（1558年～1586年）の永禄年中以降、仁孝天皇（1818年～1846年）の文政即ち江戸時代を通じて約300年の間、東本願寺に於て存続していた事を証明した。

更に「進士流御婚礼御座鋪鏝並式三献之画図一卷」については日本家政学会関西支部第16回研究会で紹介し、進士流の式三献、進士流御婚礼饗御膳、及び三本立饗御膳を紹介し、当時最も優美といわれた婚礼の三献式法や饗膳法について知る事が出た。

今回は「真如上人様御本卦御祝儀之節調進之画図一卷」によって当時の儀式や行事の食事作法を紹介する。